

## 学校選択制を考える（6）――導入を見送った宝塚市

これまで当ブログでは、学校選択制「廃止」を決断した前橋市や東京杉並区、長崎市を取り上げてきました。しかし、いったん導入してしまえば、通学制度の大きな変革になるので、様々な弊害が出てきてもなかなか廃止を決断することが難しい自治体も多いのではないかと思います。その意味では、導入に際して、慎重には慎重を期した議論が必要です。

今回は、市長が学校選択制を主導して導入しようとしたが、結局導入を見送った宝塚市の事例を紹介したいと思います。

宝塚市では、2003年に学校選択制を選挙公約に掲げて当選した渡部市長が、強力に推進する姿勢を示しました。2004年4月には宝塚市教委も導入のための「宝塚市学校改革審議会」を設置し、学校選択制の導入に向けた議論を開始しました。

2005年9月、「宝塚市学校改革審議会」は、1年半の議論の結果、「宝塚市において学校選択制を導入するのは時期尚早である」との結論を出しました。

その理由を答申では、以下のように指摘しています。

- (1) 児童・生徒は地域で育てるべきである。
- (2) 通学路や学校の安全性に問題が生じるおそれがある。
- (3) 学校選択制を導入することで学校間格差を生じるおそれがある。
- (4) 学校選択制は、障がいのある子どもへの対応が十分に行き届かないおそれがある。
- (5) 学校選択制を導入した場合、すべての児童・生徒が希望校へ行けるとは限らない。

このような結論に至ったのは、保護者だけでなく教職員から強い危惧が出されたことです。大阪市では、学校選択制導入に向けて各区で「教育フォーラム」や熟議が行われています。しかし、現場の教職員は全く排除されています。大阪市教委も宝塚市教委のように保護者・市民の意見に加えて現場教職員の意見を十分聞くことが必要です。

### ◆校長会、教職員からの噴出した圧倒的な反対意見

「宝塚市学校改革審議会 議事録より抜粋」

○学校としても校長会としても議論をしている。学校は地域に支えられて教育活動を進めているので、学校選択制を導入すると、返って地域に根ざした学校づくりに逆行するのではないかという意見がまず出た。

○学校として地域の実態などから特色を持った教育をすすめているが、そのこととは別にデメリットとして心配されている学校間の格差が大きくなるのではないかという意見も出

た。つまり、行きたい学校、行きたくない学校がでるのではないかという心配をしている。

○子どもに関わる事件事故が連日報道される中、通学の安全確保についても不安であるという意見も出た。

○学校選択制が導入されると、子どもの数が増えたり減ったりすることが頻繁にあり、学校の体制づくりや学級編制づくりがこれまで以上に大変になるのではないかという不安も出ている。この他にもいろいろと意見は出ているが、教職員としては導入には反対という意見が圧倒的である。

○校長会としては、現状の宝塚市への学校選択制の導入については、学校間格差を助長するのではないかという懸念を持っている。また、本市には山手にある学校、歴史の古い学校、新しく建てられた学校など、さまざまに条件が違っている。その中で、他地域で実施しているような方法での導入は難しいと考えている。

○これまでも地域の教育力を受けながら、地域に根ざし地域に開かれた学校づくりに力を入れてきたし、実績も上げている。このことが学校選択制導入によって困難になるのではないか、地域と学校の結びつきが弱まってこないかという心配がある。

○最近の子どもは仲間づくりがうまくできにくくなってきており、このことに拍車がかかるのではないかという意見も出ている。

○障害のある子どもは地域の中で生きていけるように、地域で育てていくということからも、学校選択制を導入をすることは考えにくい。

○子どもたちの通学の安全についても、いろいろと不審者が出没する状況があるため、現在は一斉下校を実施したり保護者に連絡してパトロールをお願いしたりしている。また、風水害の対応時も、地域や保護者の協力は欠かせない。このような中で学校選択制が導入されると、対応が大変になるとも考える。

○行きたい学校、行きたくない学校が出て、学校の序列化に繋がってしまう。人権教育の観点からも差別意識を助長しかねないとも心配している。公教育は教育の機会均等を念頭において、一人ひとりの子どもを大切にすることを進めていきたいと考えている。

○すでに導入している地域では、学校の児童生徒の男女比のバランスが崩れたと聞いている。このことも心配である。